

若手教師が自信や意欲を持って授業に取り組むには

-授業後の生徒指導主事としてのコンサルテーションを通して-

池嶋 一隆

(大阪教育大学教職大学院/寝屋川市立第八中学校)

家近 早苗

(大阪教育大学)

問題と目的

表1 A中学校の教師の年齢分布

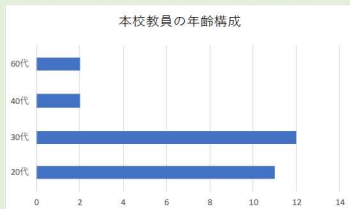
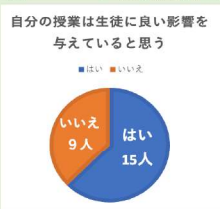


表2 2020年4月校内調査



近年の教育現場では50代後半と30代前半の教師の数が相対的に多く、その間の年齢層の教員が少なくなっている(文部科学省2019)。発表者の勤務校でもその実態は顕著であり、30代以下の教員が全体の8割以上をしめる。また2020年4月のアンケートでは約40%の教師が自分の授業に自信がないと回答している。若い教師が多い学校では、経験不足による校内研修の不活性化が起きやすい(臼井2016)ことが示唆されており、自分の授業に自信を持っていないまま教壇に立っている若い教師は多いのではないだろうか。一方で、職場の協働性が教師の学習指導効力感を高めることが指摘されている(貝川2006)。本研究では授業後の授業者へのコンサルテーションを通して、若手教師の授業力や学習指導効力感を高めるための生徒指導主事のアドバイスについて検討する。

[目的] 「授業後のコンサルテーション」を通して、若手教師が意欲的に授業研究を行い、自信を持って授業を行うことができるようになるために、生徒指導主事としてどのようなアドバイスをすれば良いかを検討する。

方法

[期間] 2020年8月～2021年3月

[対象者] 大阪府内A中学校の若手教員6名

国語10年目 数学8年目
社会5年目 英語4年目
理科4年目 音楽1年目

[方法]

- ①対象者6名の授業を週に1回見学に行き、授業メモを作成する。
- ②授業メモを用いて振り返りシート(Class Visits Sheet)を作成する。

[コンサルテーション]

- ③作成した振り返りシートを用いて「生徒指導的スキル」「全ての教科に共通の授業スキル」「教科の特質に応じた授業スキル」の3つの視点から、授業者にフィードバックを行う。
- ④振り返りシートに記入したデータを読み込み、「どのようなことを授業者に伝えようとしていたか」という視点から切片化し内容の近いもので分類し概念化する。

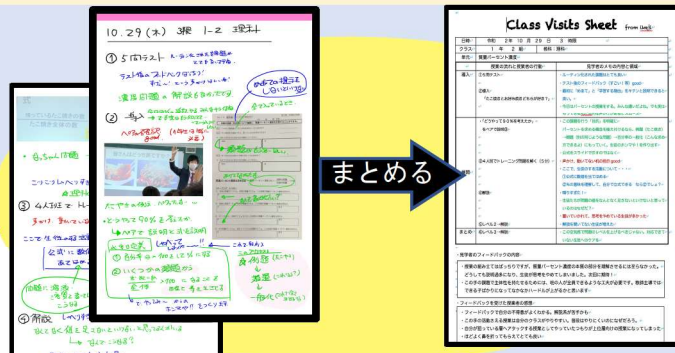


図1 授業メモ

図2 振り返りシート

授業者のニーズに応じた内容でフィードバック

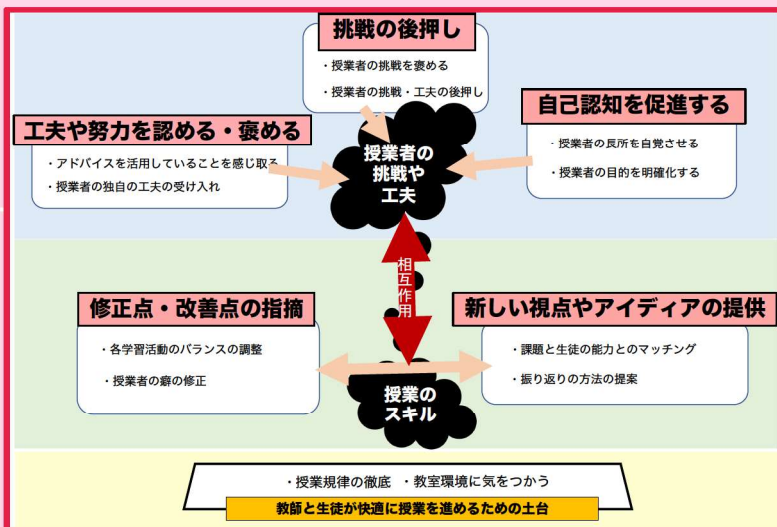
項目を整理し、報告者がどのようなことを授業者に伝えようとしていたかを分類

結果

54回の授業の振り返りシートのアドバイスの内容を切片化し、748項目を得た。それらを意味内容の近いもので分類し、6つの大カテゴリにまとめた。各カテゴリの関係性を概念図にまとめた。

表3 授業者に行ったフィードバックの内容

大カテゴリ名	小カテゴリ名 (一部抜粋)
修正点・改善点の指摘 (146項目)	各学習活動のバランスの調整 授業者の癖の修正
新しい視点やアイデアの提供 (255項目)	課題と生徒の能力とのマッチング 振り返りの方法の提案
工夫や努力を認める・褒める (183項目)	アドバイスを活用していることを感じ取る 授業者独自の工夫の受け入れ
自己認知を促進する (82項目)	授業者の目的を明確化する 授業者の長所を自覚させる
挑戦の後押し (32項目)	授業者の挑戦を褒める 授業者の挑戦・工夫の後押し
教師と生徒が快適に授業をすすめるための土台 (50項目)	授業規律の徹底 教室環境に気を遣う



若手教員へアドバイスを
する際には・・・

授業を支える生徒指導的スキルを基本的な土台として、授業者の

授業者スキルに関するアドバイス

と
授業者の挑戦や工夫を認め、後押しするようなアドバイス

が
相互に作用し合うことで授業者の成長につながっていくと考えられる。

図3 授業後の若手教員へのコンサルテーションの概念図

[今後の課題と実践の展望]

- ・コンサルテーションによる調査対象者の意識や行動の具体的な変化についての検討を行う
- ・全校で教師相互による授業見学・フィードバックの実践を行い、職場の協働性の向上と教師の学習指導効力感の向上を図る